

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	16H06304	研究期間	平成28(2016)年度 ～令和2(2020)年度
研究課題	教育ビッグデータを用いた教育・ 学習支援のためのクラウド情報基 盤の研究	研究代表者 (所属・職) (令和4年3月現在)	緒方 広明 (京都大学・学術情報メディア センター・教授)

【令和元(2019)年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
○ A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>本研究は、現在注目を集めているビッグデータとデータサイエンスの最先端技術を教育分野に取り入れて、教育ビッグデータとその有効活用を目指している。</p> <p>実用面で大変意義深く、2020年の初等中等教育におけるデジタル教科書の導入を見据えた重要な研究である。現在までに教育ビッグデータクラウド情報基盤システムを開発するとともに、一次評価実験を九州大学で実施している。また大学にとどまらず、小中学校への展開に向けた準備を行っている。発表論文数も多く、概ね順調に研究が進展していると判断する。</p> <p>一方、代表者の所属機関の変更及びスタッフ確保の遅れにより、研究計画の一部に遅れが見られるため、研究目的の達成に向けた研究計画遂行への努力が必要である。</p>	

【令和4(2022)年度 検証結果】

検証結果	当初目標に対し、期待どおりの成果があった。
A	エビデンスに基づくテラーメイド型教育を目指して、教育ビッグデータの収集・分析を行うクラウド情報基盤システム LEAF(Learning and Evidence Analytics Framework)等を開発し、広く初等中等高等教育等の教育・学習現場で実証実験により有効性を検証した。また、本システムを社会に広めるために一般社団法人エビデンス駆動型教育研究協議会を設立し、本システムの導入等、国内外で利活用されている。
	データ蓄積の環境も整備され、エビデンスに基づく主体的な学びを促進するための新しい教育・学習理論への更なる展開を期待したい。